

タイトル

搾乳器の使用感について 第 3 報

— 搾乳器使用開始時の吸引リズムと吸引圧について —

ピジョン株式会社 中央研究所

平田 尚子、斉藤 哲

【目的】

搾乳器の使用感に影響を及ぼしている要因には、吸引圧、吸引リズム、乳房と搾乳口とのフィット感等があげられる。吸引リズムや吸引圧の強さによって、乳首・乳頭へ痛み・違和感が生じる可能性がある。今回、電動搾乳器を用いて、搾乳開始時の吸引リズムと吸引圧について検討した。

【対象と方法】

対象：1～2 ヶ月の乳児を持つ母親 10 名、全ての母親が母乳育児を実践しており、搾乳器使用に同意を得られた母親が対象者となった。

方法：搾乳器は P 社の「Silent Electric Breast Pump」、を使用し、1 回の使用ごとに記録をつけた。吸引リズム 1 (37.5 cycle/min) / 吸引圧 1 (-60 mmHg) と設定した際の弱い刺激を準備モードと定義し、電源を入れてから排乳開始まで、このモードを使用した場合とそうでない場合をそれぞれ行った。排乳開始後は、母親の自由とした。倫理的配慮として、母親には調査内容を説明後、同意を得た上で参加してもらい、搾乳器の使用時間、搾乳量は母体、乳児ともに負担のない範囲で行った。

【結果と考察】

準備モードがあるほうが搾乳時の痛みの発生率は少なかった。準備モードを使用した場合、排乳開始までの時間の平均(SD)は、32.4 秒 (18.7)、しなかった場合は 10.9 秒 (9.7) であった。搾乳効率は、準備モードありの場合が、平均 (SD) 3.8 ml/min (2.4)、なしの場合が 6.1 ml/min (4.7) であった。以上のことから、準備モードを使用することで、乳首・乳頭への負担は少なくなることが考えられるが、排乳時間、搾乳効率の面では、少し時間がかかる傾向にあった。今後は、排乳時間、搾乳効率のよい負担の少ない準備モード (吸引圧/リズム) の条件検討をさらに詳しく行っていく予定である。